

タイ農園研修レポート

(平成 26 年 1 月 31 日～2 月 4 日)

直営部 箕面小野原店 西川 舞

・タイ チェンマイについて

タイ チェンマイの 1 月平均気温は最低 15℃、最高 30℃だそうだが、滞在中の 22 日最低気温は 13℃、最高気温は 25.5℃、 23 日最低気温 11.8℃ 最高気温 26.9℃ 山岳地帯の気温も平年 10 度程のところは 3 度まで下がる事があったそうで、今年のコーヒー豆は小さく収穫量も少ないとの事だったが、チェンマイ市内も今年は気温が低めようです。バンコクに次ぐ規模で、空港も中心地に近く交通網も発展しておりカフェが非常に多い。エンドユーザーから数時間の距離に農園を作ることが出来き、生産者と消費者の交流もしやすい為、流通の拠点としては非常に優れていると感じました。

タイ北部では山岳地帯の方の生活向上の為、手がかからず同時に他の作物も作れる為コーヒー生産が始まったとの事でした。Hilkoff さんがしっかりセミナーまで設けて下さったのでいまでは生活向上を超えてカーボンオフセットやフェアトレード、品質の向上といった一歩前に進もうとしている姿勢も見せて頂きました。国と、大学と企業がコーヒー生産における先進国を目指して進もうとしているのは分かりましたが、その高い意識が実際に日々生産の場にいる方の隅々まで浸透しているのかといえばまだまだで、新しい方向へ進み始めたばかりの印象も受けました。早くこの意識がすみずみに浸透し、高品質なものが流通しだすよう頑張ってくださいと思います。

・生産地を訪れて学んだこと

耕作地と、その加工の為のエリアと、生活エリアの近さに驚きました。子供たちの小学校のすぐ下手に住居があって、そのさらに下手はコーヒーの木が植えられていて、住居のすぐ横手だったり、商店の店先で店番をしながら選別をしている。この近さは文章や写真では感じられなかった事だと思いますので実際見せて頂いて本当に良かったです。コーヒーの栽培というと、大きな農園で決められた条件で多くの人が働いている特殊なイメージで強かったです。が、この地域のコーヒーに密着して生活している姿を見ると、コーヒーも作物で、日本の農家の方が野菜や米を耕作するのとなんら変わらないと改めて思いました。

・その他この研修で感じたこと

チェンマイへは初めて伺いましたが、ライフラインもしっかり整っているチェンマイ市内と、自然の中で伝統的な生活をされている地域との距離の近さが一番驚きました。おそらく都市部で生まれ育つだろう若い方がバイクで気軽に来る事が出来る距離で、観光する側と、生活の場のすぐ近くを観光されている側にわかれているのを間近でみて複雑な気持ちになりました。

これだけしか離れていないので、伝統的な地域に新しい文化が流入してくることは避けられないでしょうし、流入する事で生活は便利になるでしょうが、同じようなことが起こつたらどう日本にはもうこのような地域はありません。コーヒーを栽培する事で得られた現金収入で生活の質や子供たちの将来の自由さを向上させることと、伝統はなくさないことの両立をやってほしいなと思いました。外国から人や物が入り、大きな農園を急激に作った他国とは違い、タイは悪い例も良い例も見ただけで今から発展しようとしていて、内側から引っ張ろうとしている方もいらっしゃるのでは無いかなと思います。

これまでの私は知識として詰め込んでいただけで、生産者と物理的だけでなく心理的にもとても遠い距離にいたことを今回痛感しました。エンドユーザーに一番近い場所で各認証の商品を扱っていることを再度考え直し、お金を使って物を得る事にさらに意味を見つけて下さる消費者を増やして、育てていきたいです。